

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業きだっこ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動プログラムに取り組んでいる	子どもたちの発達課題を職員間で話し合い、発達を促すための活動プログラムを毎月立案しています。個別で行う感覚統合や自立課題はSNSからヒントをもらったり、研修を受講したりしながら知識を高め、療育に活かしてきました。また、1年を通して様々な動きを楽しみリズムに取り組み、音を聞いて動くこと・止まることや友だちと一緒に動きを合わせる力を育んできました。	子どもたちの発達課題を見極める力やどんな遊びからどんな発達を促せるのか考える力を職員間で学び合いながら身につけていきます。来年度は年齢別の活動を増やし、子どもたちの得意なことを伸ばしていきます。
2	職員間の情報共有ができています	支援前には必ず打ち合わせを行い、子どもたちの姿の共有、活動内容、職員の役割分担の確認を行っています。また、支援終了後には、一日の振り返りのために声をかけ合い、子どもたちの姿や保護者の方からの連絡事項の共有を行っています。どちらの時間にも参加できないパート職員には、ホワイトボードや付箋を使い、伝達を行っています。	来年度も担当制で療育を進めていくため、チームごとの話し合いや情報共有、個別支援計画の確認を毎月のチーム会議で行います。チーム会議で話し合った内容は、他チームの職員や児童発達支援管理責任者にも共有するために、ファイルを作り、いつでも閲覧できるようにしていきます。
3	研修へ積極的に参加している	愛知県や東海市から連絡がある研修の案内は、どの職員も閲覧できるように、印刷をして、見やすい場所に張り出しています。興味のある研修は、参加しやすいように、職員を配置し、積極的に参加できる環境を整えています。	来年度は研修で学んだことを他の職員にも共有できるように、事業所会議内で勉強会を行い、研修内容の報告や意見交換、療育で実践したことの共有を行います。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午後遊びの内容や活動場所に制限がある	年中児・年長児の午後の活動時間と職員の休憩時間が重なり、子どもの人数に合わせて1~2名の職員を配置していますが、午前の活動に比べると、レポートリーが少なく、活動のレポートリーを増やし、午前の活動と関連した活動を行っています。施設周辺の公園へ散歩に出かけ、体を動かす遊びを積極的に取り入れていきます。	学年ごとでのチーム分けをし、午後の活動も担当支援者が行うことで、子どもたちの姿の見通しを持ちやすく、活動のレポートリーを増やし、午前の活動と関連した活動を行っています。施設周辺の公園へ散歩に出かけ、体を動かす遊びを積極的に取り入れていきます。
2	支援の目標をパート職員と話し合う時間が取れない	午後の活動を行う子どもたちの人数が年々増えているため、短時間勤務のパート職員との話し合う時間をサービス提供時間内で確保することができず、職員が個々でのやりとりをするだけになっています。	パート職員の勤務時間を増やすことや、完全なチーム担当制を行い担当支援者を固定することで、話し合いができる時間を確保しやすくしていきます。
3	ヒヤリハットの共有ができていない	毎日の療育の中で小さな怪我やヒヤリハットが起きていますが、共有するための記録用紙が整備されておらず、言葉での伝達だけになっています。時間が経つと忘れてしまうことも多く、同じヒヤリハットが繰り返されている現状があります。	一日の振り返りの時間に簡単に記入できる様式を用意し、ヒヤリハットを事業所内で共有していき、同じようなヒヤリハットや小さな怪我を防げるように、職員全員が意識していきます。